

# JAMTTC News Letter

No.13-1 Feb. 2009

**JAMTTC**  
<http://jamttc.umin.jp>

日本がん分子標的治療学会  
Japanese Association for Molecular Target Therapy of Cancer

事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-10-6 (財)癌研究会癌化学療法センター内  
TEL : 03-3520-0111 内線 : 5417 FAX : 03-3570-0484

## 目 次

---

日本がん分子標的治療学会の継続・発展を期して .....	1
年間スケジュール .....	2
歴代会長・会員数の推移 .....	3
日本がん分子標的治療学会 役員 .....	4
第13回日本がん分子標的治療学会学術集会開催のお知らせ .....	6
理事長 鶴尾 隆博士を悼む.....	8
編集後記 .....	10
入会申込書（個人会員・学生会員）.....	11
入会申込書（法人会員） .....	12

# 日本がん分子標的治療学会の継続・発展を期して

理事長代行 曾根三郎

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
呼吸器・膠原病内科学分野、腫瘍内科学分野

平成20年11月1日付けにて、がん分子標的治療研究会（JAMTTC）としての12年間の実績を礎石に、さらなる発展を目指して「日本がん分子標的治療学会」と名称変更されました。設立当初からリーダーシップを発揮してこられた鶴尾隆先生が初代理事長に就任されましたが、昨年12月16日に、がんのために志半ばでご逝去されたことは非常に残念であり、本学会にとっても大きな損失で、「余人をもって代え難し」の思いを致しております。

このような状況下にあります。鶴尾先生のご遺志である「本学会の継続発展」を最優先課題と考えますと、学会としての基盤を構築するためにも学会機能を一時的にも休止させることは許されない状況にあります。この度、総務担当副理事長の曾根が、先日の理事会（1月9日）にて理事長代行に推挙され、承認されましたのを受けて、微力ではありますが、次期理事長選出までの間、本学会の事業活動を担当させて頂くことになりました。会員の先生方にはご支援並びにご協力の程よろしくお願い申し上げます。

JAMTTCが学会として大きく飛躍していくには、鶴尾理事長が推進されてこられた産官学の連携が基本軸にあることは言うまでもありません。産学連携により、日本でのがん分子標的薬の開発をいかに効率的に進めるか？ がん分子標的薬の創薬から育薬へ、また、適正使用のための標準化も視野に入れた臨床研究の取り組みが産学の会員が集うJAMTTCに求められております。そのためには、最近、世界的に問題となっている臨床研究に係る利益相反（conflict of Interest,略してCOI）問題を本学会においても正面から取り組み、適正に産学連携を推進するため、会員等による本学会での発表が公明性、透明性を担保に情報交換され、社会に向けて発信されていく仕組み作りが必要と考えております。先日の理事会にて、JAMTTCは2学会（日本癌治療学会・日本臨床腫瘍学会）合同の「がん臨床研究の利益相反に関する指針」を共通指針として受け入れ、COIマネージメントのための細則は独自に策定することを決定しました。このことにより、産学の連携をより強化し、がん分子標的治療の創薬から育薬へ向けての学会活動がより活発に推進できるものと期待しております。

本学会の運営を財務的にも事務的にも効率的に行うために、先日の理事会にて大きく分類して三つの委員会（総務委員会、財務委員会、学術委員会）の設置が承認されました。また、今までの研究会活動を基本とする運営方針も了承されました。また、設立当初からお世話頂いている癌研究会癌化学療法センターに本学会事務局を設置し、事務局幹事として副理事長矢守先生、清宮先生、富田先生、藤田先生の諸氏にボランティアに等しいご尽力を引き続いてお願いすることになっております。同時に、財務担当の新津副理事長のご協力を仰ぎながら、本学会の基本姿勢として会費並びに参加費負担を出来るだけ抑え、若手会員が参加しやすい学会を目指していきます。

今回、第13回学術集会の会長として、故鶴尾隆先生を追悼する形で特別シンポジウムを企画することになりました。故人の多大なる貢献と功績を称え、ご冥福をお祈りしたいと考えております。鶴尾先生が手塩にかけて育ててこられた本学会が今後とも次世代に向かって大きく飛躍するべく、会員の先生方にはご協力並びにご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 日本がん分子標的治療学会年間スケジュール（2009年）

---

- 1月9日（金） 第1回理事会
- 2月上旬 今年度会費請求書送付
- 2月下旬 ニュースレターNo.13-1を全会員に送付
- 2月28日（土） 第13回学術集会 演題応募締切（6頁参照）  
詳細は ホームページ <http://jamttc13.umin.jp> 参照
- 研究奨励賞応募締切  
詳細はホームページ <http://jamttc.umin.jp/> 参照
- 5月中旬 第13回学術集会 抄録集を全会員に送付
- 6月24日（水） 第2回理事会、評議員会
- 6月25日（木）・26日（金）  
第13回学術集会開催  
会場：ホテルクレメント徳島（徳島市内）  
会員総会は学術集会会期中に開催
- 9月上旬 ニュースレター No.13-2を全会員に送付
- 11月下旬 第14回学術集会の演題募集要項を全会員に送付
- 12月中旬 来年度会費請求書送付

### ○ 研究奨励賞 応募のすすめ

本学会では、40才未満の若手研究者をエンカレッジすべく、優れた研究成果を発表された本学会会員に研究奨励賞が授与されます。奮ってご応募下さい。締切は上記の通り2月末日です。

### ○ 入会のすすめ

がん分子標的治療研究は、がん治療領域において、これから一層重要な役割をもつと考えられます。

多くの研究者・企業の本学会へのご参加をお待ちしております。（入会申込書は11-13頁）

## 歴代会長と学術集会開催記録

会長	学術集会	開催年	開催地
1 鶴尾 隆 (東京大学分子細胞生物学研究所)	第1回	1997年	東京
2 石塚 雅章 (微生物化学研究会化学療法研究所)	第2回	1998年	東京
3 桑野 信彦 (九州大学医学部)	第3回	1999年	福岡
4 上田 龍三 (名古屋市立大学医学部)	第4回	2000年	名古屋
5 西條 長宏 (国立がんセンター中央病院内科)	第5回	2001年	東京
6 新津洋司郎 (札幌医科大学医学部)	第6回	2002年	札幌
7 上原 至雅 (国立感染症研究所)	第7回	2003年	東京
8 秋山 伸一 (鹿児島大学医学部)	第8回	2004年	鹿児島
9 平岡 真寛 (京都大学医学研究科)	第9回	2005年	京都
10 矢守 隆夫 (癌研癌化学療法センター)	第10回	2006年	東京
11 福岡 正博 (近畿大学医学部堺病院長)	第11回	2007年	大阪
12 梅澤 一夫 (慶應義塾大学工学部応用化学科)	第12回	2008年	東京
13 曾根 三郎 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)	第13回	2009年	徳島

## 会員数の推移



## ホームページ

リニューアルいたしました。  
<http://jamttc.umin.jp>



## 日本がん分子標的治療学会 役員

理事長代行	曾根 三郎 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)
副理事長	曾根 三郎 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部) 新津洋司郎 (札幌医科大学医学部) 矢守 隆夫 (癌研究会癌化学療法センター)
理事	任期3年 (平成23年度まで) 上原 至雅 (岩手医科大学薬学部) 長田 裕之 (理研基幹研究所) 宮園 浩平 (東京大学大学院医学系研究科) 上田 龍三 (名古屋市立大学大学院医学研究科) 新津洋司郎 (札幌医科大学医学部) 山口 俊晴 (癌研究会有明病院) 秋永 士朗 (協和発酵キリン株式会社開発本部) 任期2年 (平成22年度まで) 今村 健志 (癌研究会癌研究所) 西尾 和人 (近畿大学医学部) 富田 章弘 (癌研究会癌化学療法センター) 石岡千加史 (東北大学加齢医学研究所) 畠 清彦 (癌研究会癌化学療法センター) 平岡 眞寛 (京都大学医学研究科) 大和 隆志 (エーザイ株式会社創薬第二研究所) 任期1年 (平成21年度まで) 梅澤 一夫 (慶応義塾大学理工学部) 杉本 芳一 (慶応義塾大学薬学部) 矢守 隆夫 (癌研究会癌化学療法センター) 西條 長宏 (国立がんセンター東病院) 曾根 三郎 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部) 藤原 康弘 (国立がんセンター中央病院) 寺田 忠史 (大鵬薬品工業株式会社飯能研究センター)
監事	渋谷 正史 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科) 橋本 祐一 (東京大学分子細胞生物学研究所)
名誉会員	石塚 雅章 (微化研) 高久 史麿 (自治医大) 尾形 悦郎 (癌研有明病院) 高橋 利忠 (愛知がんセンター) 加藤 隆一 (慶應大) 竹内 富雄 (微化研) 金丸龍之介 (河原町病院) 寺田 雅昭 (国立がんセンター) 北川 知行 (癌研) 豊島 聰 (医薬品機構) 菅野 晴夫 (癌研) 濱岡 利之 (四天王寺国際仏教大) 杉村 隆 (国立がんセンター) 村松 正實 (埼玉医大)

評議員

青木 裕子 (中外製薬)	清宮 啓之 (癌研癌化学療法センター)
秋永 士朗 (協和発酵キリン)	曾根 三郎 (徳島大学院ヘルスバイオ)
秋山 伸一 (鹿児島大医)	高井 義美 (神戸大医)
秋山 徹 (東大分生研)	高子 徹 (第一三共)
安藤 俊夫 (埼玉医大)	田村 友秀 (国立がんセンター)
石岡千加史 (東北大加齢研)	田中 秀和 (塩野義製薬)
石川 冬木 (京大院生命)	谷口 維紹 (東大院医)
磯江 敏幸 (協和発酵キリン)	田沼 靖一 (東京理科大薬)
今井 浩三 (札幌医大)	寺田 忠史 (大鵬薬品工業)
今村 健志 (癌研癌研究所)	戸井 雅和 (京大院医)
井本 正哉 (慶大院理工)	富田 章弘 (癌研癌化学療法センター)
入村 達郎 (東大院薬)	内藤 幹彦 (東大分生研)
上田 博嗣 (アステラス製薬)	中川 和彦 (近畿大医)
上田 龍三 (名市立大院医)	中村 篤 (サノフィ・アベンティス)
上原 至雅 (岩手医大薬)	中村 秀男 (田辺三菱製薬)
梅澤 一夫 (慶大理工)	中村 祐輔 (東大医科研)
及川 勉 (神奈川県立保健福祉大)	中森 正二 (大阪医療センター)
大和 隆志 (エーザイ)	新津洋司郎 (札幌医大)
岡田 全司 (近畿中央胸部疾患セ)	西尾 和人 (近畿大医)
長田 裕之 (理研基幹研)	西山 正彦 (埼玉医大)
小澤 敬也 (自治医大)	橋本 順一 (ファイザー)
小野 真弓 (九大院薬)	橋本 祐一 (東大分生研)
小俣 政男 (東大院医)	畠 清彦 (癌研癌化学療法センター)
川田 学 (微化研)	花岡 文雄 (学習院大)
北角 和浩 (グラクソ・スミスクライン)	早川 洋一 (東京理科大薬)
北野 浩己 (バイエル薬品)	平岡 真寛 (京大院医)
桑野 信彦 (九大)	福岡 正博 (近畿大医)
河野 公俊 (産業医大)	伏谷 伸宏 (北大院水産)
河野 通明 (長崎大薬)	藤田 直也 (癌研癌化学療法センター)
小平 浩 (ヤクルト本社)	藤原 康弘 (国立がんセンター)
小林 淳一 (北大院薬)	古矢 修一 (武田薬品工業)
済木 育夫 (富山大和漢医薬)	本間 良夫 (島根大医)
西條 長宏 (国立がんセンター東病院)	前田 浩 (崇城大薬)
酒井 敏行 (京都府立医大)	前原 喜彦 (九大院医)
阪口 薫雄 (熊本大医)	松島 綱治 (東大院医)
佐々木琢磨 (愛知学院大薬)	松田 彰 (北大院薬)
佐々木康綱 (埼玉医大)	宮坂 昌之 (阪大院医)
佐藤 昇志 (札幌医大)	宮園 浩平 (東大院医)
佐藤 靖史 (東北大加齢研)	森野 富夫 (日本化薬)
珠玖 洋 (三重大医)	八木田秀雄 (順天堂大医)
渋谷 正史 (東京医歯大院医歯)	矢口 信一 (全薬工業)
島田 隆 (日本医大)	山口 俊晴 (癌研有明病院)
島田 安博 (国立がんセンター)	山崎 達美 (中外製薬)
清水 信義 (慶大先導研)	山添 康 (東北大院薬)
首藤 紘一 (乙卯研)	山本 雅 (東大医科研)
蔣 海漪 (アストラゼネカ)	矢守 隆夫 (癌研癌化学療法センター)
杉本 芳一 (慶大薬)	吉田 純 (名大院医)
杉山 雄一 (東大院薬)	吉田 稔 (理研基幹研)
清木 元治 (東大医科研)	綿矢 有佑 (岡山大薬)

## 第13回日本がん分子標的治療学会 開催のお知らせ

**主 題** がん分子標的治療とバイオマーカーの  
点と点を結ぶ展開

**会 期** 2009年6月25日(木)・26日(金)

**会 場** 学術集会および懇親会  
ホテルクレメント徳島  
〒770-0831 徳島市寺島本町西1目61番地  
(JR徳島駅直結)  
Tel:088-656-3111

**内 容**

- シンポジウム (指定)
  - ①分子標的創薬システムとその検証
  - ②がんの微小環境と標的分子
- 故鶴尾隆博士追悼シンポジウム (指定)
- Year in Review (指定)
- ワークショップ/ポスターセッション (公募)
- 総会・研究奨励賞授賞式

**参加費**

学会 総会 会 員	5,000円
学生会員	3,000円
非 会 員	10,000円
懇 親 会	5,000円

スケジュール

6月25日(木)		6月26日(金)
8:30～ Year in Review ワークショップ	午 前	8:00～ Year in Review ワークショップ
ランチョン セミナー		ランチョン セミナー
総会 ポスターセッション シンポジウム① 特別シンポジウム	午 後	ポスターセッション シンポジウム②
懇親会	夕 刻	

**演題登録締切**  
**2009年2月28日(土)**

お問い合わせ

第13回日本がん分子標的治療学会学術集会事務局  
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
呼吸器・膠原病内科学分野/腫瘍内科学分野  
担当：西岡安彦、堀井千尋  
TEL：088-633-7127 (直通) FAX：088-633-2134  
E-mail:jamttc13@umin.ac.jp

# がん分子標的治療と バイオマーカーの点と点を結ぶ展開

## 日本がん分子標的治療学会 第13回学術集会

# JAMTTC

会長 **曾根三郎**

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
呼吸器・膠原病内科学分野/腫瘍内科学分野

2009年  
**6月25日(木)・26日(金)**  
**ホテルクレメント徳島**  
(JR徳島駅直結)

### ■ 演題応募締切

平成21年(2009年) 2月28日(土) 正午  
詳細はホームページをご覧ください。  
<http://jamttc13.umin.jp>

### ■ シンポジウム(指定)

分子標的創薬システムとその検証  
がんの微小環境と標的分子

### ■ 故 鶴尾 隆博士追悼シンポジウム(指定)

### ■ Year in Review(指定)

### ■ ワークショップ/ポスターセッション(公募)

#### 演題分野

新しい方法論の開発/アポトーシス・オートファジー/  
遺伝子治療/がん遺伝子産物/血管新生・低酸素/細胞骨格/細胞周期/  
腫瘍免疫/増殖因子・サイトカイン/耐性因子・感受性因子/  
DNA複製・修復/テロメア・テロメラーゼ活性/転移・浸潤/  
転写因子/バイオマーカー/分化誘導/ホルモン・レセプター/  
メディシナルケミストリー/臨床試験/その他

事務局

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 呼吸器・膠原病内科学分野/腫瘍内科学分野 西岡安彦、堀井千尋  
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15 TEL:088-633-7127 FAX:088-633-2134 E-mail: jamttc13@umin.ac.jp

## 理事長 鶴尾 隆博士を悼む

故 鶴尾 隆博士は、がん治療研究を40年に亘るライフワークとして取り組み、多くのがん研究者の育成とともに数多くの業績をあげて来られましたが、肺がんと宣告されて以後、半年にわたる闘病生活の末、平成20年12月16日に65歳の寿命を閉じられました。ここに、鶴尾博士を偲ぶとともに故人の功績を称え、日本がん分子標的治療学会への献身的な活動と功績についてご紹介させて頂き、追悼文とさせていただきます。

### <鶴尾博士の略歴>

昭和42年3月	東京大学・薬学部卒業
昭和47年3月	東京大学大学院・薬学系研究科博士課程修了
昭和47年4月	東京大学・薬学部・助手
昭和49年12月	セントルイス大学分子ウイルス学研究所・研究員
昭和51年4月	カリフォルニア大学・分子生物学研究所・研究員
昭和52年4月	(財)癌研究会・癌化学療法センター・研究員
昭和55年7月	米国フレデリックがんセンター(研究派遣3ヶ月)
昭和58年10月	(財)癌研究会・癌化学療法センター・主任研究員
昭和59年4月	米国国立癌研究所客員研究員(1年間)
昭和61年7月	(財)癌研究会・癌化学療法センター・基礎研究部長
平成1年5月	東京大学・応用微生物研究所・教授
平成11年4月	東京大学・分子細胞生物学研究所・所長
平成18年4月	(財)癌研究会・癌化学療法センター・所長
平成18年7月	東京大学名誉教授
平成20年7月	(財)癌研究会理事
平成20年12月	ご逝去

学会長等	平成9年6月	第1回がん分子標的治療研究会学術総会会長
	平成11～16年度	文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「総合がん」領域代表
	平成19年10月	第66回日本癌学会学術総会会長
	平成20年11月	日本がん分子標的治療学会理事長

受賞	日本癌学会奨励賞(昭和58年)
	高松宮妃癌研究基金学術賞(平成3年)
	(財)癌研究会学術賞(平成9年)
	日本薬学会賞(平成9年)
	日本癌学会吉田富三賞(平成16年)
	紫綬褒章(平成17年)
	従四位瑞宝中授章(平成21年)

### がん分子標的治療研究会設立

1990年前後より、がん化学療法に「分子標的治療」という新しい概念が芽生えてきました。すなわち、がんの悪性化に関わる新規分子の探索とその機能の解明による基礎的研究成果をもとに、その標的分子を特異

的に制御するための治療法(分子標的治療)を開発しようとするものです。鶴尾 隆博士は、この分子標的治療の開発にいち早く着目し、1993年には文部省がん重点研究の支援のもと「癌化学療法分子標的」と題したワークショップを開催しました。その後も3回のワークショップを開催し、どれも多くの参加者の活発な討議を得て成功裡に行なわれました。鶴尾博士は、医薬品開発における産官学連携の重要性を強く認識し、あらゆる企画にその趣旨を盛り込まれた点でも高い評価を受けております。また、発表形式にも特色を持たせ、一つの会場ですべての参加者が新しい発表内容に触れ、討議できるように工夫され、リレー方式で発表と質疑が行われました。ワークショップ参加者から、この分野の研究をさらに推進するための新たな研究会設立を要望する声が多く寄せられたため、鶴尾博士は、多くの賛同を得て有志とともに、1996年に「がん分子標的治療研究会」を正式に発足させ、(財)癌研究会・癌化学療法センターに事務局を設けました。欧米でも、日本に3年遅れて、AACR-EORTC-NCI合同での第一回Molecular Targets and Cancer Therapeutics Conferenceが1999年にワシントンDCで開催されたことを考えると、鶴尾博士の先見性とリーダーシップの賜物と思われまます。「がん分子標的治療研究会」は発足当初より多くの研究者の関心を集め、約500名の初期会員を有するかなり大きな研究会として運営されることになりました。

### がん分子標的治療研究会学術総会・ワークショップなどの開催

第1回がん分子標的治療研究会学術総会は、1997年6月6、7日の2日間にわたって、鶴尾博士を会長として東京都渋谷区の日本薬学会長井記念館で開催されました。その後、がん分子標的治療研究会の学術総会は着実に年1回各会長のもとで開催されてきました。がん分子標的治療研究会は、学術集会の開催だけでなく、別個にワークショップなども企画してきました。その代表例として、がん分子標的治療研究会が代表世話人になり、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、がん分子標的治療研究会、基盤的癌免疫研究会、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「がん研究の総合的推進に関する研究班」、日本製薬工業協会などと共催で、産官学の英知を結集させた「がんトランスレショナルリサーチ(TR)ワークショップ」を5回開催したことが挙げられます。第1回から第4回までは鶴尾博士が代表世話人としてリーダーシップを発揮され、現在日本で強力に進められているがんトランスレショナルリサーチの隆盛につながる大きなきっかけになったと思われまます。特に第2回TRワークショップ開催時には、「がんのトランスレショナルリサーチ推進への提言」という文書をまとめられ、関係省庁、学術団体などへ情報発信されたことは特筆に値します。

### 日本がん分子標的治療学会への移行

「がん分子標的治療研究会」は、がん治療の基礎研究者、臨床研究者、企業での新薬開発担当者が集うユニークな会として発展し、2008年現在で会員数が1,250名まで増加し、ますますがん分子標的治療への関心が高まってきております。そこで、がん分子標的治療研究会発足12周年を一区切りとして、今後の継続性と発展性を期するために、2008年11月1日をもって「日本がん分子標的治療学会」へ移行することが決定され、スタートしました。初代の「日本がん分子標的治療学会」理事長には、生みの親でもある鶴尾 隆博士が満場一致で選出・就任されました。しかし誠に残念なことに鶴尾 隆博士は12月16日にご逝去されました。鶴尾博士は、生前、がん克服に向けた分子標的治療研究への夢を常日頃から語られ、国際的な産学連携活動への取り組みを積極的に推進されていただけに、突然の死は余りにも大きな損失であり、非常に残念であります。

ここに、会員を代表し、鶴尾博士の数多くの功績を称えるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

日本がん分子標的治療学会 理事長代行  
日本がん分子標的治療学会 第13回学術集会会長  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 教授  
曾 根 三 郎

#### 編集後記（事務局）

---

「がん分子標的治療研究会」から「日本がん分子標的治療学会」に生まれ変わって第1号の学会通信です。名称も「JAMTTC News Letter」と改め、通常は7-8月発行ですが、学会発足を記念して臨時発行致しました。事務局はこれまで通り、癌研・化療センター内にあつて、本学会の運営をお手伝いさせていただきます。学術交流を通して社会貢献度のより高い学会へ脱皮したいと思います。本学会について会員諸氏からご意見、ご要望があれば事務局あてお寄せください。これまで以上にご支援いただければ幸いです。

事務局代表 矢守 隆夫  
(財団法人癌研究会癌化学療法センター)

#### 日本がん分子標的治療学会事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-10-6 (財)癌研究会癌化学療法センター内  
TEL : 03-3520-0111 内線 : 5417 FAX : 03-3570-0484 E-mail : jamttc@jfcr.or.jp

---

# 日本がん分子標的治療学会 個人会員・学生会員 入会申込書

申込年月日：            年            月            日

**入会申込み要領**

1. この申込書に必要な事項をご記入及び該当する事項に○を付け、下記あて郵便もしくはFAXにてお送り下さい。記入漏れのある場合は再提出していただくこともございます。
2. 個人会員は当学会役員(理事、名誉会員、評議員)1名の、学生会員は指導教官の推薦文、署名、捺印が必要です。
3. 入会申込書受領後1週間前後で会費振込用紙をお送り致しますので、最寄りのゆうちょ銀行・郵便局よりお振込下さい。
4. 会費は個人会員5,000円、学生会員2,000円です。(本会の会計年度は1月～12月です。)

(入会申込書送付先) 日本がん分子標的治療学会 事務局  
〒135-8550 東京都江東区有明3-10-6 (財) 癌研究会癌化学療法センター内  
TEL: 03-3520-0111 (内線: 5417) FAX: 03-3570-0484

私は、「日本がん分子標的治療学会」に 個人会員  
学生会員 として参加致します。(いずれかに○)

	姓	名	学位
氏名			
	Family Name	First Name	専門分野
英文			
所属機関			TEL
			FAX
所属機関住所			E-mail

\* 連絡先(書類送付先)として所属機関と異なる住所を希望する場合には以下に記入して下さい。

住所			
TEL	FAX	TEL	E-mail

推薦人	自署		
推薦文			

# 日本がん分子標的治療学会 法人会員 入会申込書

申込年月日：            年            月            日

**入会申込み要領**

1. この申込書に必要事項をご記入いただき、下記あて郵便もしくはFAXにてお送り下さい。
2. 入会申込書受領後1週間前後で会費振込用紙をお送り致しますので、最寄りのゆうちょ銀行・郵便局よりお振込下さい。
3. 会費は200,000円です。（本会の会計年度は1月～12月です。）

（入会申込書送付先） 日本がん分子標的治療学会 事務局  
〒135-8550 東京都江東区有明3-10-6  
（財）癌研究会癌化学療法センター内  
TEL：03-3520-0111（内線：5417） FAX：03-3570-0484

当社は、「日本がん分子標的治療学会」に法人会員として参加致します。

貴社名

部 課 名

住 所 〒

TEL

FAX

E-mail

代 表 者  
氏 名

姓

名

学位

英文表記

Family Name

First Name

専門分野

代表者を含めて20名以内の方のお名前をお届けください。（別紙）

住所、電話などが代表者と異なる場合には、別紙にリストを作成してください。

	姓 Family Name	名 First Name	学位 E-mail Address	専門分野
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

代表者以外の方のお名前は後日お届けいただいても結構です。

